

トイレで排泄させるために有用だった簡易型移乗リフト「ささえ手」
～在宅療養中の多系統萎縮症に対する導入経験～



医療法人羅寿久会 浅木病院

訪問看護ステーション¹⁾ 看護部²⁾ 地域連携室³⁾ リハビリテーション科⁴⁾

©中村 雅美(Ns)¹⁾ 野口 さやか(Ns)²⁾ 重松 さやか (MSW)³⁾ 三好 安(MD)⁴⁾

【はじめに】

- ▶ 多介助を要する患者をトイレで排泄させる場合、移乗や下衣操作の介助負担は大きい。
- ▶ 介護用リフトの導入が進まない要因として、操作が煩雑で時間がかかる事や、使用スペースの狭さなどが考えられる。
- ▶ 簡易型リフト「ささえ手」の導入により、在宅で容易にトイレを使用できるようになった多系統萎縮症の重症例を経験した。
- ▶ 従来のリフトとの相違点を交えて報告する。

【症例】

- ◆ 50歳代 女性
- ◆ 身長：155cm 体重：65kg BMI：27（肥満）
- ◆ 多系統萎縮症（要介護度5）
- ◆ 主介護者：60歳代の夫、従妹

【病状経過】

X年 ふらつきが出現し多系統萎縮症(MSA-P)と診断
X+2年 歩行障害悪化
X+3年 車椅子生活となった。
X+6年 起立や移乗が不能となり、トイレでの排泄が困難



「ポータブルトイレは絶対に使いたくない」



そこで
本人の思いを汲み取り
床走行式電動リフト
を導入

【結果】



床走行式電動リフト

導入したが、、、

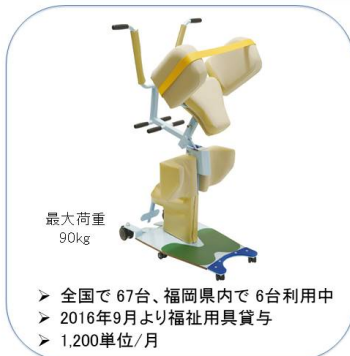


- ✓ 吊り具で負荷がかかり身体が痛い。
- ✓ 身体がずり落ちそうで怖い。

- ✓ 介助量が少なくてよい。
- ✓ 吊り具の設置に時間がかかる。
- ✓ 電動昇降はゆっくり動くから時間がかかる。
- ✓ ズボンの上げ下げに吊り具が邪魔だ。

そこで

簡易型移乗リフト「ささえ手」を導入



最大荷重
90kg

- ▶ 全国で67台、福岡県内で6台利用中
- ▶ 2016年9月より福祉用具貸与
- ▶ 1,200単位/月

導入して、

- ✓ 吊り具がないので、痛みがなくなった。
- ✓ 怖くなくなった。

- ✓ 昇降操作が足元で簡単に行える。
- ✓ 吊り具がなくお尻がみえるので、ズボンの上げ下ろしや尻拭きがしやすい。
- ✓ 介助時間が大幅に短縮した。
- ✓ 女性の力でも簡単に動かして楽。
- ✓ 小回りが利き、使用スペースが減った。
- ✓ 床に傷が付きやすい。



【使用手順】



① 本体を胸部に差し入れる。



② 足ペダルで介助し、ハンドルを引ながらゆっくり立ち上がらせる。



③ 利用者の快適な位置で止める。
(任意の位置で止められる)

トイレから車椅子へ



トイレからの立ち上がり



リフトでの移動



車椅子へ着座

【考察】

- ▶ 「ささえ手」の最大の特徴は、吊り具を使用せずに座位から半座位にできることである。
- ▶ 臀部が垂直位になるために下衣操作も容易となり、トイレへの誘導にとって合理的で実用性が高い。
- ▶ 障害が重度である患者にトイレを利用する際には、考慮すべき選択肢となり得る。